

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教科：国語 科目：現代の国語 単位数：2 単位
 対象学年組：第1学年 1組～9組
 教科担当者：

使用教科書：（精選現代の国語（東京書籍））

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 現代の国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
実社会に必要な国語の知識や技能や技能を身につけるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話	書	読					
「まだ知らない自分に出会う」 [知技] ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深める。(3)ア [思判表] ・本とのつき合い方について考える。(Aア・イ) [主] ・読書の意義と効用について進んで理解を深め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討し、学習課題にそって発表する。	1 対話についての考え方に注意しながら、本文を通読する。(手引き1) 2 筆者の考える読書が、どのようなものであるかを理解する。(手引き2) 3 「対話は不完全なコミュニケーションだ。」といえる理由を理解し、まとめる。(手引き3・4) 4 本文の論旨をもとに「まだ知らない自分に出会う」機会について読み取り、まとめる。(手引き5)	○			[知技] ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 [思判表] 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 [主] 進んで対話を持つ双方向のコミュニケーションの意味を理解し、学習課題に沿って自分の読書経験を振り返り、対話によって「まだ知らない自分」に出会った経験を話し合おうとしている。	○	○	○	6
「届く言葉」 [知技] ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。(1)オ ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。(2)ア [思判表] ・レトリックの意味と、視点を変えることの重要性について理解する。(Cア・イ) [主] ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解し、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈し、学習課題にそって文章を読み比べ、相互理解を深めるために今何が必要か意見を書き、進んで自分の考えを深める。	1 対比的に用いられている言葉の意味を押さえながら、本文を通読する。(手引き1) 2 評論の読み方のポイントを押さえる。評論で論じられている内容の理解を深めるために現代の問題に関心を持ち、自分自身のこととして積極的に向き合う姿勢を養う。(評論の読み方) 4 『はやぶさ』プロジェクトの説明のうまさについて読み取り、まとめる。(手引き2・3-1) 5 「内向きの言葉」と「外に向かう言葉」について読み取り、まとめる。(手引き3-2・4) 6 「届く言葉」について、本文のテーマをもとに読み取り、まとめる。(手引き3-3・5)		○		[知技] ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 [主] 粘り強く評論の文章構造や対比関係を捉え、学習課題に沿って評論の理解を深め、現代の話題や問題に関心を持つようとしている。	○	○	○	6
1 学期 「水の東西」 [知技] ・文、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。(1)オ ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。(2)ア [思判表] ・比較という方法を理解し、文化について考える。(Bア・イ) [主] ・進んで、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解し、自分の考えが的確に伝わるよう、粘り強く根拠の示し方や説明の仕方を考え、課題にそって表現の仕方を工夫して紹介文を書く。	1 筆者は、「鹿おどし」と「噴水」とを、どのようなものとして捉えているか、本文中の対句的表現を手がかりに整理する。 2 筆者が「『鹿おどし』は、……いえるかもしれない。」という理由を、本文の内容にそってまとめる。 3 この文章の構成や展開の特徴を指摘し、その効果について話し合う。		○		[知技] ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や言葉の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 [主]	○	○	○	8

<p>「情報を整理しながら話し合う」 [知技] ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにする。(1)エ) ・話の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。(1)オ) [思判表] ・多面的思考という観点から、合意形成のための「設計」について考える。(Aア) [主] ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解し、論点を共有して考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を積極的に工夫し、学習課題にそってマイクロディベートに参加し、考えを深める。</p>	<p>1 「学習の流れ」を読み、活動のポイントの見直しを持つ。 2 話し合いには種類があることを理解し、「S高校の生物部」の話し合いの例を参考に、「企画会議」の進め方を確認する。 3 「課題」(P149)の中から一つを選び、グループに分かれて司会や記録係などの役割を分担し、話し合いの目的と、必要とする事前準備を確認のうえ、次時までに必要なアイデア案などを考えてくる。 4 グループで、各自のアイデア案の概要を確かめるとともに、時間配分などの話し合いの進め方を確認する。 5 提案者が各案を説明し、質疑応答をしながら検討事項を表に整理し、話し合う。 6 話し合いの結果、決まったことや今後の課題を整理し、確認する。 7 前時の話し合いについて、「振り返りのポイント」の各項目について振り返り、確認する。 8 グループごとに、話し合いの結果をクラス全体に発表し、成果と課題を共有する。</p>		<p>・比較を通じて粘り強く「東西」の文化の差異への理解を深め、今までの学習を生かして自分の興味や関心を他者に伝えようとしている。</p> <p>[知技] ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 [思判表] ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「話すこと・聞くこと」において、論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。 [主] ・積極的に「企画会議」の進め方に沿って論点を共有し、学習の見直しをもって提案内容を整理しながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとしている。</p>		6
<p>「言葉は世界を切り分ける」 [知技] ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使う。(1)ウ) ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。(1)オ) [思判表] ・「選べる社会」の出現がもたらした新たな問題について考察する。(Cア・イ) [主] ・文章の効果的な組立て方や接続の仕方について進んで理解を深め、文章の内容や構成、論理の展開などについての的確に捉え、要旨や要点を把握し、学習課題にそって文章を読み比べ、自分の考えを深め、批評する。</p>	<p>1 具体例と筆者の主張の関係を押さえながら、本文を通読する。(手引き1) 2 本文を読んで、印象に残った表現、文章の構成の仕方などについて気づいたことを挙げる。 3 外国語でコミュニケーションを取ることの難しさについて、具体的に読み取り、まとめる。(手引き2) 4 言葉の「『面』としての意味」について、具体例を踏まえて読み取り、まとめる。(手引き3) 5 異なる言語が世界を異なる仕方で分節することについて、具体例を踏まえて読み取り、まとめる。(手引き4) 6 第四段が第一段でなされた問題提起に対する回答となっていることを読み取り、まとめる。 7 言葉の働きについて、筆者の主張を踏まえて、考えたことをまとめる。(手引き5)</p>		<p>[知技] ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 [主] ・粘り強く言葉の意味への理解に努め、学習課題に沿って筆者の主張を踏まえ、言葉の働きについて自分の考えをまとめようとしている。</p>		6
<p>「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 [知技] ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使う。(1)カ) [思判表] ・機械の認識と人間の認識の違いを考える。(Bア・イ) [主] ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解し、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、学習課題にそってレポートをまとめ、進んで文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。</p>	<p>1 「コミュニケーション」「意図」「意味」「物語」などの語句に注意しながら、本文を通読する。(手引き1) 2 コミュニケーションに関する、「クロード・エルウッド・シャノンらの考え方」とはどのようなものかを読み取り、まとめる。(手引き2) 3 「特徴を表現するという方法」に欠けている「重要な視点」とは何か、また、それが「『意図』についての理解」とどのように結び付いているかを読み取り、まとめる。(手引き3・4) 4 「場」と「身体」との関係に注意しながら、「こうした考え方が、どのような考え方を指しているか」を読み取り、まとめる。(手引き5) 5 「『自らの人生を生きる』という行為」は、「人間や生物にのみ許された行為である」と筆者が考える理由を、「人工知能」との対比を踏まえて理解し、まとめる。(手引き6)</p>		<p>[知技] ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 [主] ・粘り強く筆者が説く人間と人工知能の比較について理解し、今までの学習を生かして筆者が考える「自分の人生を生きる」行為について読み取り、自分の考えを深めようとしている。</p>		6

<p>調べた情報を説明資料にまとめる</p> <p>[知技] ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。(2)ア) ・比喻、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使う。(1)カ)</p> <p>[思判表] ・言語と認識の関係について考えを深める。(Bア・イ)</p> <p>[主] ・進んで、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解し、自分の考えが的確に伝わるよう、粘り強く根拠の示し方や説明の仕方を考え、課題にそって表現の仕方を工夫して紹介文を書く。</p>	<p>1「学習の流れ」を読み、活動のポイントの見直しを持つ。 2「海外留学説明会」の資料を作成した例を参考に、説明資料の作り方を理解する。 3「課題」(P114)の中から一つを選び、どのような説明資料を作るかを定める。 4調べるべき情報の項目をリストアップする。 5前時に挙げた情報の項目を、分類・整理する。 6情報を収集・活用するために、グラフや写真の読み取り方を理解する。(グラフや写真の読み取り方) 7前時に整理した情報の項目ごとに、手持ちの資料を読み返したり、図書資料やインターネットのウェブサイト等を活用したりして、情報を集める。 8調べて分かったことを「情報カード」にまとめていく。 9「情報カード」に記入した情報を、「情報の発信者」「情報の信頼性」「情報の新しさ」「情報の分かりやすさ」の四つの観点から吟味する。</p>	○	<p>[知技] ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。</p> <p>[思判表] ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。</p> <p>[主] ・積極的に説明資料の作成に必要な情報を収集、整理し、学習課題に沿って伝える相手や目的を意識した説明資料を作成する活動をしようとしている。</p>	○ ○ ○	6
<p>「今ここにある無数の未知」</p> <p>[知技] ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。(1)オ) ・比喻、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使う。(1)カ)</p> <p>[思判表] ・「見る」とはどういうことか、事例をもとに考察する。(Cア・イ)</p> <p>[主] ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解し、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈し、学習課題にそって文章を読み比べ、相互理解を深めるために今何が必要か意見文を書き、進んで自分の考えを深める。</p>	<p>1本文に述べられているさまざまな旅について考えながら、本文を通読する。(手引き1) 2「辺境」の旅の体験を通して筆者が考えたことを読み取り、まとめる。(手引き2-1) 3「本来の旅」の在り方をさまざまな旅と比較しながら読み取り、まとめる。(手引き2-2) 4「無数の未知を発見する旅」について、本文の論旨をもとに読み取り、まとめる。(手引き3・4)</p>	○	<p>[知技] ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>[思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。</p> <p>[主] ・積極的に筆者が考えたことを理解し、学習課題に沿って表現に託された意味を捉え、自己との関係の中で、世界についての考えを深めようとしている。</p>	○ ○ ○	5
<p>「共鳴し引き出される力」</p> <p>[知技] ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにする。(1)エ) ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。(1)オ)</p> <p>[思判表] 「生命の尊さ」について考えを深める。(Bア・イ)</p> <p>[主] ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解し、目的や意図に応じて、粘り強く文章を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりし、学習課題にそって小論文を書き、考えを深める。</p>	<p>1筆者の「能力」の捉え方に注意しながら、本文を通読する。(手引き1) 2丹野さんの考えたことから導かれる「ラディカルな発想の転換」を理解し、まとめる。(手引き2) 3筆者が、「能力」とは個人に属するものであるかどうかという視点から疑問を呈していることを確認する。 4全盲のランナーと目の見える伴走者の例から「『共鳴』の感覚」について読み取り、まとめる。(手引き3) 5「予防」と「予備」についての筆者の捉え方を読み取り、まとめる。(手引き4) 6「他者の力を巧みに取り込み、自分をネットワーク化して生きる人たち」が「身をもって示す能力の定義」が、どのようなものであるか理解し、まとめる。(手引き5)</p>	○	<p>[知技] ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・推論の仕方を理解し使っている。</p> <p>[思判表] ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。</p> <p>[主] ・粘り強く筆者の捉える「能力」について理解を深め、今までの学習を生かして同じテーマの文章を読み比べ、自分の意見を整理しようとしている。</p>	○ ○ ○	5

「白」
[知技]
・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。
(1)オ)
・主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。(2)ア)
[思判表]
「相対的よそ者」とは誰のことか、自らに問いかける。(Cア・イ)
[主]
・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解し、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、進んで内容や書き手の意図を解釈し、学習課題にそって図やグラフなどを効果的に用いて発表し、考えを深める。

1 本文に述べられている「白」の持つ意味について考えながら、本文を通読する。(手引き1)
2 「白」が人間の意識に及ぼしている影響について読み取り、まとめる。
3 「推敲」という美意識を手がかりに筆者の言う「白という感受性」とはどのようなものかを読み取り、まとめる。(手引き2)
4 「人間の境界」を通読したうえで、インターネットが生み出す「新たな知の基準」と「推敲」の美意識との違いを読み取り、まとめる。(思考への扉3——人間の境界・手引き3)
5 『徒然草』の例によって示された「白」の持つ意味を、本文の論旨をもとに読み取り、まとめる。(手引き4)
6 筆者の言う「白という感受性」とインターネット時代の感受性を比較し、意見文を書く。(言語活動)

[知技]
・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。
・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。
[思判表]
・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
[主]
・積極的に筆者の示す「白」について理解を深め、今までの学習を生かして「新たな知の基準」に対する自分の考えをまとめようとしている。

○ ○ ○	16
合計	
	70

高等学校 令和8年度 (1学年用) 教科 国語 科目 言語文化

教科: 国語 科目: 言語文化 単位数: 2 単位
 対象学年組: 第 1 学年 1 組 ~ 9 組
 教科担当者:

使用教科書: 精選言語文化 (東京書籍)

教科 国語 の目標:

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標:

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わるうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数	
		語	書	読						
1 学 期	古文「児のそら寝」(『宇治拾遺物語』) ○歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。 【知識・技能】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ。 【主体的に学習に取り組む態度】進んで文語のきまりについて理解し、自分のものの見方を深め、学習課題に沿って作品の内容について批評しようとしている。	1. 古文と現代文の違いについて確認する。 2. 説話というジャンルについて理解する。 3. 本文を音読し、歴史的仮名遣いに慣れる。 4. 児の気持ちと変化と行動を理解し、最後の描写の意味について考える。 5. 文語の活用について理解する。 6. 良秀、人々の言動と人物像を読み取る。現代語訳する際の注意点を理解する。	○			【知識・技能】 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1ウ) 【思考・判断・表現】 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで文語のきまりについて理解し、自分のものの見方を深め、学習課題にそって作品の内容について批評しようとしている。	○	○	○	6
	古文『伊勢物語』 【知識・技能】 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1ウ) 【思考・判断・表現】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉える。(Bア) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで歌物語の特徴や表現の仕方について理解し、学習課題に沿って、各章段に描かれた内容を的確に捉える。	「芥川」 1. 全文を音読し、話の概略を捉える。 2. 女の高貴性と男の心情の推移を読み取る。 3. 「白玉か…」の歌に込められた男の心情と歌の役割を考える。 4. (文語文法) 動詞の活用の種類を理解する。	○			【知識・技能】 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1ウ) 【思考・判断・表現】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉えている。(Bア) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで歌物語の特徴や表現の仕方について理解し、学習課題に沿って、各章段に描かれた内容を的確に捉えようとしている。	○	○	○	12
	漢文入門「訓読の基本」 ○漢文の特色を知り、訓読の決まりを理解するとともに、格言に親しむ。 【知識・技能】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 【思考・判断・表現】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉える。 【主体的に学習に取り組む態度】進んで古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解し、内容や展開についての的確に捉え、学習課題に沿って古典から受け継がれてきた表現の技法などについて調べる。	1. 漢文の基本構造「主語・述語」と訓点(句読点、送り仮名、書き下し文)について理解する。 2. 基本構造「修飾語・被修飾語」を理解し、訓点、書き下し文に慣れる。 3. 正しく書き下し文に直したうえで、現代語訳する。 4. 漢文が日本の古典の中でどのような位置を担ってきたか、その意義の大きさを理解する。	○			【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2ウ) 【思考・判断・表現】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉えている。(Bア) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解し、内容や展開についての的確に捉え、学習課題にそって古典から受け継がれてきた表現の技法などについて調べようとしている。	○	○	○	8

2 学 期	<p>小説「羅生門」芥川龍之介 ○極限状況にある登場人物の心情の変化を場面展開に即して読み取り、主題について考える。</p> <p>【知識・技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。(1)ア 【思考・判断・表現】 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。(Bウ) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章の構成や展開について積極的に評価し、学習課題にそって作品の内容について討論する。</p>	<p>1. 全文を通読し、時代は意見を確かめる。 2. 場面の变化に注意して、本文全体を4つの意味段落に分ける。 3. 「作者」の説明に従って、「下人」の状態、行動、心情を具体的にとらえる。 4. 「下人」と「老婆」の関係性をとらえる。 5. 「下人」と「老婆」の他に「作者」という語り手の目を通して、作品世界が語られる小説の構造について理解する。 6. 「黒洞々たる夜」という結末について、「老婆」や「下人」のその後について考える。</p>	○	<p>【知識・技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア 【思考・判断・表現】 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章の構成や展開について積極的に評価し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。</p>	○ ○ ○	12
	<p>古文随筆「徒然草」 【知識・技能】 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。(1)ウ 【思考・判断・表現】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉える。(Bア) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで作品の文化的背景を理解し、作品と他の作品との関係を踏まえて内容の解釈を深め、今までの学習を生かして異なる時代に成立した作品を比較して論じる。</p>	<p>「丹波に出雲といふ所あり」 1. 話のあらすじを大きくつかむ。 2. 段落ごとの関係を理解する。 3. 主題を考える。 4. 作者の考え方と現代のわれわれの考え方を対比する。 5. (文語文法) 形容詞・形容動詞を理解する。</p>	○	<p>【知識・技能】 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) 【思考・判断・表現】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉えている。(Bア) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで作品の文化的背景を理解し、作品と他の作品との関係を踏まえて内容の解釈を深め、今までの学習を生かして異なる時代に成立した作品を比較して論じようとしている。</p>	○ ○ ○	5
	<p>単元「故事成語」 【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。(2)ウ) 【思考・判断・表現】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉える。(Bア) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解し、内容や展開についての的確に捉え、学習課題にそって古典から受け継がれてきた表現の技法などについて調べる。</p>	<p>・教材「唐詩紀事(推敲)」計有功 ・一人1台端末の活用等</p> <p>・韓愈が「敵」の字をよとした理由について話し合う。 ・なぜ二人は「響を並べて」詩を論じたのか考える。 ・「推敲」は現在どのような意味で使われているか調べる。</p>	○	<p>【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ) 【思考・判断・表現】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉えている。(Bア) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解し、内容や展開についての的確に捉え、学習課題にそって古典から受け継がれてきた表現の技法などについて調べようとしている。</p>	○ ○ ○	3

高等学校 令和8年度（2学年用）教科

国語 科目 文学国語・理系文学

教科：国語

科目：文学国語・理系文学

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1～9組

教科担当者：

使用教科書：（文国706 『文学国語』 数研出版）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 国語の知識や技能を身につけ、その特質を理解し、適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 作品を正しく読み解く力をつけ、深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉の価値への認識を深め、伝え合う力、生涯にわたり国語を尊重しその能力の向上を図る態度を養う。

科目 文学国語・理系文学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技術を身につけるとともに、我が国の伝統文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって国語に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通じて他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数	
		話	書	読						
1 学期	☆小説 中島 敦「山月記」 ●虚構の真実、状況における心理のありようを読む	①作品の舞台をイメージする。 ②作品の構造をおさえる。 ③登場人物の人物像と心理の変化を読み取る。 ④李徴が虎に変身する経緯と心理を読み取る。 ⑤李徴の執着を理解する。 ⑥袁悛の視点から李徴の在り方をとらえる。 ⑦「人虎伝」との比較で作家の意図を考える。	○	○	○		○	○	○	12
	定期考査／返却&解説					○	○			1
	☆小説 中島 敦「山月記」 ●虚構の真実、状況における心理のありようを読む	①作品の舞台をイメージする。 ②作品の構造をおさえる。 ③登場人物の人物像と心理の変化を読み取る。 ④李徴が虎に変身する経緯と心理を読み取る。 ⑤李徴の執着を理解する。 ⑥袁悛の視点から李徴の在り方をとらえる。 ⑦「人虎伝」との比較で作家の意図を考える。	○	○	○		○	○	○	12
定期考査／返却&解説						○	○			2

2 学 期	☆大正の小説 夏目漱石「こころ」 ●心の多面的にとらえ、「読む」という行為の意義を学ぶ。	①小説全体の構成をつかむ。 ②「私」と「先生」の心情について考える。 ③登場人物の言動から不可解な部分、言葉に含まれる暗示をおさえる。 ④「私」と「K」の心情を理解する。 ⑤「精神的に向上心のない者はばかだ」と「K」の「覚悟」の内実の受け止め方の深化。 ⑥「私」の決断への過程と心情の変化。 ⑦結婚を申し込んだ後の「私」の心の葛藤。 ⑧「K」の自殺に直面した「私」の心理。 ⑨「K」の自殺の理由。 ⑩「私」の「死んだつもりで生きていこう」という心情。 ⑪「私＝先生」が自殺する理由と「私」に遺書を残す理由。	○	○	○	【知識・技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章の構成や展開について積極的に評価し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。	○	○	○	11
	定期考査／返却&解説						○	○		2
	☆大正の小説 夏目漱石「こころ」 ●心の多面的にとらえ、「読む」という行為の意義を学ぶ。	①小説全体の構成をつかむ。 ②「私」と「先生」の心情について考える。 ③登場人物の言動から不可解な部分、言葉に含まれる暗示をおさえる。 ④「私」と「K」の心情を理解する。 ⑤「精神的に向上心のない者はばかだ」と「K」の「覚悟」の内実の受け止め方の深化。 ⑥「私」の決断への過程と心情の変化。 ⑦結婚を申し込んだ後の「私」の心の葛藤。 ⑧「K」の自殺に直面した「私」の心理。 ⑨「K」の自殺の理由。 ⑩「私」の「死んだつもりで生きていこう」という心情。 ⑪「私＝先生」が自殺する理由と「私」に遺書を残す理由。	○	○	○	【知識・技能】 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。(2)ア) 【思考・判断・表現】 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bウ) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで我が国の言語文化の特質について理解し、我が国の言語文化について自分の考えをもち、今までの学習を生かして我が国の言語文化について論述しようとしている。				11
定期考査／返却&解説			○	○			○	○		2
3 学 期	☆昭和初期の小説 井伏鱒二「山椒魚」 ●言葉の裏の繊細な心情を丁寧に読み取る	①全文通読し、作品の構成をつかむ。 ②「山椒魚」の悲しみについて理解する。 ③めだかがどんな人間を表すか考える。 ④「山椒魚」の絶望や孤独がどのようなものか考える。 ⑤なぜ和解があり得るのか、鮭と山椒魚の双方の心理を考える。	○	○	○	【知識・技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章の構成や展開について積極的に評価し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。	○	○	○	15
	定期考査／返却&解説									2
				○	○					合計

教科・科目	論理国語	2単位	対象学年	2学年
教科書	探求 論理国語(桐原書店)		教科担当者	
副教材	新訂総合国語便覧(第一学習社)、現代文単語げんたん改訂版(いいずな書店)、四訂版大学入試漢字TOP2000(いいずな書店)、四訂版プログレス現代文総演習標準編(いいずな書店)、入試頻出新国語問題総演習(桐原書店)			

目標	【A:知識及び技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	【B:思考力、判断力、表現力等】 論理的、批判的に考える力を伸ばし、創造する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	【C:学びに向かう力、人間性等】 読書を通じて自己を向上させ、言葉の価値を認識し、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
----	--------------------------------------	--	---

学期	単元	時間	指導内容・留意点等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一学期	「気持ちよさという罪」村上沙耶香 「科学と市民」池内了 「集落の創造」藤井明 「イスラム感覚」藤井新也 『もどかしさ』の融合」佐佐木幸綱 実用的な文章	26	<ul style="list-style-type: none"> 前近代・近代・ポスト近代、それぞれの時代における人々のものの考え方について理解する。 文章における論理について理解する。 文章の構成・展開を理解し、他者の考えを理解する。 筆者の論理的な思考方法を学び、自らの思考を論理的に表現する。 思考と認識について理解し、言葉が持つ価値への理解を深める。 	○	○	○	定期考査 小テスト 授業への取り組み 課題レポート 発表 など
二学期	「芸術も科学も『別世界』をみせる」岡田暁生 『物語』としての伝統」西江雅之 『資本』の出現」大澤真幸 『である』ことと『する』こと」丸山真男 「博物館というメディア」村田麻里子 「現実・相貌・物語」野矢茂樹 実用的な文章	30	<ul style="list-style-type: none"> 文章における論理について理解する。 文章の構成・展開を理解し、他者の考えを理解する。 筆者の論理的な思考方法を学び、自らの思考を論理的に表現する。 実用的な文章を読み、実社会に必要な国語の力について理解する。 現代的な視点で物事を捉え直す思考や視野を広げる。 現代の科学、民主主義、個人などの問題点を理解し、現代社会への興味を高める。 	○	○	○	定期考査 小テスト 授業への取り組み 課題レポート 発表 など
三学期	「暴力はどこからきたか」山極寿一 「キャラクターの身体、自動車の身体」三宅陽一郎	14 合計 70	<ul style="list-style-type: none"> 文章における論理について理解する。 文章の構成・展開を理解し、他者の考えを理解する。 筆者の論理的な思考方法を学び、自らの思考を論理的に表現する。 現代的な視点で物事を捉え直す思考や視野を広げる。 現代の経済、文化などの問題点を理解し、現代社会への興味を高め、その解決策を考え表現する。 抽象的な題材に対する正しい理解で自己の思考を深める。 	○	○	○	定期考査 小テスト 授業への取り組み 課題レポート 発表 など

高等学校 令和8年度 (3学年用) 教科 国語 科目 論理国語

教科: 国語 科目: 論理国語 単位数: 2 単位
 対象学年組: 第 3 学年 1 組 ~ 9 組
 教科担当者:

使用教科書: (探求論理国語 (桐原書店))

教科 国語 の目標:

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語 の目標:

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
実社会に必要な国語の知識や技能や技能を身につけるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話・聞	書	読					
・文章における対比構造や論理構造を読み取り、文意を正確に把握する。 ・文章から読み取れる近代社会における問題点を把握し、その問題点に対して自分の意見を持つことができる。 ・設問に対して、過不足なく正確に解答を作成する力を身につける。	高階秀爾「オブジェとイメージ」 評論解析C 菅野稔人「権力にまつわる『秘密』」 佐藤卓己「メディアと民主化」	○	○	○	知・技 ・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。(11ウ) 思・判・表 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。(読ア) 主 ・進んで文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開を的確に捉えて要旨を把握し、文章の内容について説明したり話し合ったりしよう	○	○	○	14
	今村仁司「市民社会化する家族」 東浩紀「ポストモダンと排除社会」	○	○	○	知・技 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。(11エ) 思・判・表 ・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。(書イ) 主 ・進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習の見通しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にし、自分の考えをまとめて批評し合おうとしている。	○	○	○	14

2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 文章における対比構造や論理構造を読み取り、文意を正確に把握する。 文章から読み取れる近代社会における問題点を把握し、その問題点に対して自分の意見を持つことができる。 設問に対して、過不足なく正確に解答を作成する力を身につける。 	河野哲也「真理の探求と民主主義」 評論解析C 原研哉「足跡」 渡部泰明「創造としての本歌取り」	○	○	○	知・技 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。(1)エ) 思・判・表 ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。(読エ) 主 ・進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開や表現の仕方について多面的・多角的な視点から評価し、文章の内容をもとに自分の考えを論述したり、討論したりしようとしている。	○	○	○	14
	<ul style="list-style-type: none"> 文章における対比構造や論理構造を読み取り、文意を正確に把握する。 文章から読み取れる近代社会における問題点を把握し、その問題点に対して自分の意見を持つことができる。 設問に対して、過不足なく正確に解答を作成する力を身につける。 	入試問題演習	○	○	○	知・技 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。(2)イ) 思・判・表 ・実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。(書ア) 主 ・進んで情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、学習の見通しをもって、様々な観点から情報を収集して適切な題材を決め、自分の考えを論述しようとしている。	○	○	○	14

3 学期

入試問題演習

- ・ 文章における対比構造や論理構造を読み取り、文意を正確に把握する。
- ・ 文章から読み取れる近代社会における問題点を把握し、その問題点に対して自分の意見を持つことができる。
- ・ 設問に対して、過不足なく正確に解答を作成する力を身につける。

○ ○ ○

知・技

- ・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)

思・判・表

- ・ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。(読イ)

主

- ・ 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。

○ ○ ○

10

合計

70

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科 国語 科目 文学国語

教科: 国語 科目: 文学国語 単位数: 2 単位
 対象学年組: 第3学年 1~3, 5~9組
 教科担当者:

使用教科書: (文国706 『文学国語』 数研出版)

- 科目 文学国語 の目標:
- 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 - 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 - 【学びに向かう力、人間性等】 言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目	文学国語	の目標:
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技術を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話	聞	書					
1 学 期	☆昭和の小説 安部 公房「赤い繭」	1 本文を三つに分けて、「おれ」が置かれている状況をそれぞれまとめる。 2 「だが、家が出て来ても、今度は帰ってゆくおれがない」とは、どういうことかを考える。 3 この作品に込められた寓意は、どのようなものか考えを深める。	○	○	○	【知識・技能】 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(1)ア) ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ) 【思考・判断・表現】 ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。(読イ) ・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。(読エ)	○	○	○	6
	☆昭和の小説 安部 公房「靴」	1 「さんざん迷ったあげく、一種の消去法と言いますか、けっきょくここしかないことがわかったわけです」とあるが、どういうことか。まとめる。 2 靴に対する「私」の考え方はどのように変化したか、整理する。 3 この物語が投げかけている問題について「選ぶ道がなければ、迷うこともない。私は嫌になるほど自由だった」に着目して考え、話し合う。	○	○	○	【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に込められた寓意を考察し、これまでの学習を生かして自分の意見を表出しようとしている。	○	○	6	
	定期考査/返却&解説						○	○	2	
	☆大正の小説 梶井 基次郎「檸檬」	1 「私」は「檸檬」をどのように感じているかを本文に沿ってまとめる。 2 「二銭や三銭のもの—といって贅沢なもの。美しいもの—といって無気力な私の触角にむしる媚びてくるもの。—そういったものが自然私を慰めるのだ」とは、どういうことかを説明する。 3 「第二のアイディア」からは、「私」のどのような願望がうかがえるかを説明する。 4 心の不可思議さについて、自分が経験したことを書く。	○	○	○	【知識・技能】 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(2)イ) 【思考・判断・表現】 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読カ) 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。	○	○	○	10
	定期考査/返却&解説					○	○	2		

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科 国語 科目 古典探究

教科: 国語 科目: 古典探究 単位数: 3 単位
 対象学年組: 第 3 学年 1 組 ~ 9 組
 教科担当者:

使用教科書: (古探711『 高等学校 古典探究 』数研出版)

- 教科 国語 の目標:
- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 - 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 - 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
- 科目 古典探究 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		話	聞	書	読						
1 学 期	源氏物語「小柴垣のもと」	・「生ひ立たむ……」と「初草の……」の歌について、「若草」「露」「初草」が何をたとえているか、それぞれの歌は何を訴えようとしているか、説明する。 ・光源氏は「女子」のどこに興味をひかれているのか、説明する。			○	○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2/4〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。〔A1/4〕 【主体的に学習に取り組む態度】 登場人物の心情について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	17
	定期考査									1	
	蜻蛉日記「うつろひたる菊」	・作者は中宮定子をどのような人物だと感じたか、説明する。 ・「葛城の神もしばし」という定子の発言の意図を考える。 ・周囲の女房たちはこの頃の清少納言をどのように見ていたか、本文をもとに話し合う。	○			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2/4〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において作品の成立した背景や他の作品との関係をふまえながら古典を読み、内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。〔A1/E〕 【主体的に学習に取り組む態度】 和歌を比較し、相違点と類似点について考察し、整理しようとしている。	○	○	○	9
	枕草子「宮に初めて参りたるころ」	・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する。 ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつくるひて書きて、うつろひたる菊にさし」で贈った作者の気持ちについて話し合う。	○			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2/4〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において作品の成立した背景や他の作品との関係をふまえながら古典を読み、内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。〔A1/E〕 【主体的に学習に取り組む態度】 和歌を比較し、相違点と類似点について考察し、整理しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査									1	
2 学 期	無名抄「俊成自賛歌のこと」	・俊成は俊成の「夕されば……」の歌について、どういう点を批判しているのか、まとめる。			○	○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2/4〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において作品の成立した背景や他の作品との関係をふまえながら古典を読み、内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。〔A1/E〕	○	○	○	12
	玉勝間「師の説になづまざるごと」	・筆者は「わが師の心」をどのように受け取っているか、まとめる。 ・筆者は「学問の道」をどのように理解し、どのように対するのがよいと考えているか、まとめる。			○		【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2/4〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。〔A1/4〕 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	12
	定期考査				○					1	
	大鏡「花山天皇の出家」	・「さり」と「さりとて」「さりとて」「さること」「さり」「さる」が指す内容を説明する。 ・花山天皇の出家はどのように行われたのか、道兼の行動に注意しながらまとめる。 ・花山天皇と道兼の人物像をまとめる。			○		【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2/4〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。〔A1/4〕 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	12
	入試問題演習				○		【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2/4〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にと	○	○	○	12

